



ジャッジ・ビジネス・スクール入学式
ディナー(左から3番目が筆者)



ジネス・スクールから合格をいただいた。最終的にケンブリッジ大学に決めたのだが、ここでもやはりUWCの経験が大きく影響している。ケンブリッジ大学のMBAプログラムは一五〇人と小規模だが、四〇カ国以上から生徒が集まって来て、国籍・人種比率のバランスが取れている。多重国籍保持者や、複数の国で職歴を積んできた人、五カ国語以上話せる人などもそこら中にいる。ここまで国際的なMBAプログラムはなかなかない。また、職歴もさまざままで、投資銀行やコンサルティングなどのかにもMBA的な職歴の人もいれば、有名企業、医師、起業家、NPOや公的機関、さらには軍隊出身者など、さまざまである。正に、私にとって、「社会人になってから経験するUWC的環境」だったのである。プログラムが始まって四カ月が過ぎたが、

期待した通りの環境と刺激で大変満足している。レバノン人とイスラエル人が一緒にプロジェクトをやり、インド人がサンタの格好をしてクリスマスプレゼントを配り、同級生みんながケルジアの非常事態を受けてケルジア人生徒の家族の心配をする。ケルジア生になることあらゆる国や業種からの例が出てきて、活発な議論が起こる。目から鱗が落ちるようなアイデアが生まれてくる。そして夏には素晴らしい多様性を持ったビジネスパーソンが世界中に旅立っていくのだろう。

私が多感な思春期にUWCで経験した数々の出来事は、おそらく私とその頃考えていたより遥かに多くの刺激を私に与えて、それが現在の私の原点となっている。私に素晴らしい機会を与えてくださった日本経

団連の方々を支えてくれていてくれる方々、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいだ。これからもUWCから世界に向けてたくさんの生徒たちが旅だつてくれることを期待したい。

日本経団連出版

TEL 03-5204-1922 FAX 03-5204-1945

2008年版

日本経団連賃金総覧

日本経団連労政第一本部編 B5判 408頁 5040円
標準者賃金/賃金水準/役職者賃金/昇給/ベースアップ/初任給/賞与・一時金/退職金

支払能力システムの使い方

「経営計画の策定と適正賃金決定」

日本経団連労政第一本部編 A5判 176頁 1470円



経営労働政策委員会報告

日本型雇用システムの新展開と課題

日本経済団体連合会編
A4判 66頁 630円



労使交渉・労使協議の手引き

交渉のポイントを詳説

日本経団連労政第一本部編
B5判 222頁 1680円



2008年版

最新刊

多様性を求めて

UWCピアンソン・カレッジ(カナダ)一九九六年卒業。二〇〇一年京都大学経済学部経営学科卒。二〇〇一年より松下電器産業勤務。現在、社費派遣留学生としてケンブリッジ大学ジャッジ・ビジネス・スクール(MBA)に留学中。

松下電器産業MBA派遣留学生

高梨真子

たかなし まきこ

最近、「多様性(ダイバーシティ)」という言葉を用いるなど耳にするようになった。国籍や人種の違いだけではなく、価値観や生活スタイルの違いなど、ありとあらゆる違いを認め合おう、という概念だと、自分では理解している。今日ではごくごく当たり前の概念だが、一四年前、UWCへ旅だった頃は全く想像のつかない代物だった。



中学一年生の時に親の仕事の都合でアメリカに住んでいた影響で、一年後日本に帰ってきてからも「いつかまた海外で生活してみたい」という思いが常に頭の片隅にあった。たまたま英語を教えてくれた大学生がピアンソン・カレッジ出身で、カレッジ生活の話を聞くうちに自分も行きたいと思うようになり、運良くピアンソン・カレッジへの切符を手にすることができた。その

頃の私は、「いろんな国の友達が作れる!」という呑気な好奇心だけで、これから二三年間の波乱の生活など全く想像できていなかった。

やはり一番大変だったのはコミュニケーションである。英語はアメリカにいたので特に問題なく話せたが、UWCに来る生徒たちは最初はほとんど話せない人が多い。また、いろんな国のいろんな訛が飛び交い、アメリカ英語しか聞き取れない私は最初何を言われているのか分からずに啞然とした。英語が話せたからと言ってコミュニケーションが十分に取れるかという点と全く違って、お互いが当たり前だと思ってしまう前提を理解していないと、話が全くかみ合わない。まずは、お互いが育ってきた文化的背景や思想を理解するところから始めなければいけない。これを二〇〇人八〇カ国以上の友達とやっていくのだから、時間がかかると折れる過程だが、この過程を通る

●(社)ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるUWCの日本委員会として、毎年一〇名前後の高校二年生を世界各地にあるUWC傘下の高校に派遣し、すでに四一七名の卒業生を輩出している。

ことよって、より深く相手を知ることができるし、けんかの種も減る。こうして多様な背景を持つ相手を理解することこそがUWCの醍醐味だと思う。たかが一〇代後半の思春期の子どもには大変ショッキングな経験だが、これが後になって自分の大きな強みになった。



再び、多様性のるつぼへ

大学卒業後、日本企業に就職し、五年間主にアメリカと日本を行ったり来たりの仕事をしてきた。仕事の中でも、UWCの経験は大変役に立った。英語だけではなく、さまざまな国籍・職歴の顧客を目の前にして先入観や偏見なく仕事をするのができた。仕事はとても充実していてやりがいもあったが、自分のキャリア・プランを考え直す時期に来ていたのと、また「海外で生活したい」思いがむくむくと湧き上がってきて、会社派遣のMBA留学に手を挙げた。ここでまた運良く派遣が決まり、中学受験以来の受験勉強をして、無事いくつかのビ